

多様なテキストを批評し Well-being の実現につなげる教育

—「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」(小6)を例に—

Education that Criticizes Various Texts and Leads to the Realization of Well-Being

— Taking “Media and Human Society” and “To Connect Deeply with Loved Ones” (6th Grade) as an Example —

佐藤 洋一、加藤 洋佑
Yoichi SATOH, Yosuke KATOH

要旨

教育再生実行会議第十二次提言（2021年6月3日）では「ポストコロナ期における新たな学びの在り方」が取りまとめられ、「一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウエルビーイング）の実現」を目指した「学習者主体の教育に転換」を軸とした様々な方策が提示された。一方、PISA2018調査結果では日本の学習者の今後の教育課題として「複数の多様な情報・テキストを比較し的確に読解」「示された観点や自らの課題意識から批評的に分析解釈、考察し評価」「論理的に効果や説得力、条件等を考慮し考えを論述（評価）」できる能力育成の必要性が鮮明になってきている。

多様な情報や価値観が交錯する現代、自己や社会に関わる課題を自分事として捉え、多様なテキストや情報・他者を批評的創造的に解釈・批評し協働的に粘り強くより良い解決方法を試行錯誤しながら探究し続ける資質・能力や態度・価値観の形成が求められている。

しかし、管見の範囲では Well-being の理念の実現につながるクリティカルで系統的な教育方法論や提案はまだほとんどみられない。本稿は小学校6年国語科学習を例に、複数のテキストを解釈・批評する学習を通し Well-being の実現につなげる教育への視点を論ずるものである。

Key word

Well-being 多様な情報・テキスト マインドセット ルーブリック

1 Well-being の理念の実現と資質・能力の育成

もともと身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること、「幸福」や「より良い生き方」と訳されることも多い概念である Well-being の理念が世界的な教育動向を背景に新しい、重要な能力観（コンピテンシー）・教育の概念として使われることになった。これに大きな影響を与えたのは「OECD が提唱するこれからの社会に必要な資質・能力」（Education2030 Learning Framework）であり、そこでは Well-being は「個人的・社会的により良く幸せに生きること」とされている（OECD Education2030 中間まとめ・日本語訳は2018年文科省）。なお、今回の教育再生実行会議第十二次提言の Well-being 概念の明記はこれを受けたものとみることができる（注1）。

なお、コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較や動向の研究、紹介は多くなされてきており（注2・5）、日本では国立教育政策研究所の PISA2015 年調査国際結果報告書、生徒の Well-being（生徒の「健やかさ・幸福度」）で心理的・社会的・認知的な側面等から15歳の生徒の Well-being の現状についての報告もなされている。

しかし、それがその後の教育方法論やカリキュラム・マネジメント研究、各教科教育研究や実践レベルでの提案にはつながってこなかった。資質・能力の「三つの柱（評価規準）」である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力を確実に育む教科の本質的な教育を行いつつ、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（Well-being）にまで意識を向けさせた教育方法、教科を学ぶ意義・価値をいかした実践的な提案等が求められるだろう。

そして、現代における真の幸せとは何か、自分が積極的にそれを定義し考え、行動していくような主体性（エージェンシー）を育んだり、価値観の異なる他者と積極的に関わりつつ自分を振り返ることができる資質・能力を（学びの調整・メタ認知能力）を育てていったりする必要がある。視点を変えればこれは、SDGs（持続可能な開発目標）の目標3「GOOD HEALTH AND WELL-BEING」の達成への貢献にもつながるものということができる。

2 Positive-Growth Mindset の概念と評価観と資質・能力育成

―批判・失敗を乗り越えるしなやかマインドセットの獲得―

Mindset（マインドセット）とは、これまでの経験や教育、先入観等から形成される思考様式、心理状態、暗黙の了解事項、思い込み（パラダイム）、価値観、信念、「無意識の思考のクセ、思い込み」等のことを指すとされる。近

年では、知識やスキルよりもマインドセットがポジティブであるか否かが、人材育成や教育、ビジネスの成果に大きな影響を与えていると言われており Well-being の実現につなげる教育方法・評価開発では大変重要な要素の一つとみることができる。提唱者の一人であるスタンフォード大学キャロル・S・ドゥエック教授の研究結果（注3）によると、マインドセットは「成長型（しなやか）」と「固定型（硬直）」の二種類に大別される。「成長型マインドセット（Positive-Growth Mindset）」は、自分の能力は努力次第で成長させることができるという考え方。「固定マインドセット（fixed-Mindset）」は、能力はもともと決められており変わらないという考え方である。多くはこの両方を持ち、状況によってマインドセットが変わることも、自分の意思で変えることも可能と言われている。

今回の実践提案では、国語科で Well-being の理念を実現する学習を構成する為、マインドセットの考え方を生かした二つのアプローチを行った。

一つ目は、「失敗・試行錯誤」を取り入れたパフォーマンス課題の設定である。固定型マインドセットでは能力は変えられないと信じているため、失敗 = 才能が無いことと同意義ととらえ失敗を強く恐れてしまいがちである。このマインドセットが強すぎると失敗する可能性を恐れ、難しい課題や状況への挑戦を避けてしまう傾向に陥ってしまう。

一方、成長型マインドセットの持ち主は能力は努力や工夫、継続（やり抜く力、注3）によって変えられると信じているので、問題に対して真剣に向き合いなぜ間違ってしまったのか、何が足りなかったのか等と思考回路が働き、次のステージを実現するためのプロセスを考え目標達成へと進んでいく。今回のパフォーマンス課題では敢えて過去の「失敗」に目を向けさせ、それを今回の学習で得た見方・考え方をを使うことで乗り越える方法を考えさせる。これにより失敗や挫折、批判等を乗り越えるしなやかマインドセット、レジリエンス等の資質・能力（社会情動的スキル）の重要性に気づくように指導していく（注3, 4）。

二つ目はルーブリック（評価基準）の開発である。「結果ではなくプロセスを重視する」「楽しく学び続ける過程、試行錯誤を大切にすること」で固定型マインドセットから成長型マインドセットへ変化させる指導・支援を行う。言い換えると学習評価を「他者との比較ではなく、あくまで自分との比較をうながす」ことで、できることを増やす、学びの質的価値、態度の形成等、これまでの自分からの成長を自覚させ「学びを調整」できるようにしていくことである。

3 21世紀型教育課程と学習に不可欠な「4C」—考察・判断、批評—

「社会情動的スキル」、いわゆる非認知スキルは主観的 Well-being に大きく影響することが知られている（注1・4）。一般には「社会情動的スキル」が自己申告による生活満足度、人生への積極的態度、幸福（不幸）に大きく影響し、その効果は認知的スキルやリテラシー獲得と向上による効果を大きく上回るとも言われている。今回の実践提案では、共感や想像力、協働・勤勉性、レジリエンスや調整能力、やり抜く力、マインドセットと社会性等、数多くあるとされる「社会情動的スキル」のうち、特に21世紀型教育課程や学習に不可欠と言われる「4C」に注目した実践を提案する。

「4C」とは、全ての子どもたちが21世紀に相応しい教育を受けられるようにとマイクロソフト、インテル等 ICT 企業、アメリカ教育省、教育団体の連携によって2002年に設立された非営利団体 Partnership for 21st Century Learning (P21)（注5）により特定された21世紀に必要とされる4つのスキルである。この4つのCは、Critical thinking（クリティカルシンキング、批判的思考力、注6）、Creativity（クリエイティビティ、創造性）、Collaboration（コラボレーション、協働）、Communication（コミュニケーション、対話・意思疎通）の頭文字を指す。なお、これら4つのスキルは様々な情報・テキストの考察・判断、批評・評価、提案等に関わる重要な基盤の能力でもあり、いわゆる「社会情動的スキル」の側面だけでなく認知的スキル・リテラシーの側面もあると考えられている。

それぞれの定義には諸説あるが私見も含め概要をまとめる（注3・5・6）。1 クリティカルシンキング（Critical Thinking 批判的・論理的思考）：情報を熟考し、それを新たな文脈のなかで解釈し既存の知識に基づいて新たな問題への解決策を見いだす能力。「常識を疑う、問い・課題を持つ」「問題発見・解決能力」。2 クリエイティビティ（Creativity 創造性）：新しくユニークなものに加え、適切かつ有用で目の前の課題に適したコンテンツを創り出す能力。デザインシンキングにも通じる感性や発想を重視した新たな企画・提案能力。3 コラボレーション（Collaboration 協働）：協働とはチームの目的を達成するためにチームの一員として他者とともに取り組むことのできる能力。自己の考えや提案を持ちつつ異質な他者との協働によって新たな発見・発想や提案を構想する力。4 コミュニケーション（Communication 対話・意思疎通）：自分の考えを的確に他者に分かりやすく効率的に伝えることができる能力、対話・聞く能力、議論を評価する力、共感・想像力も含めた人間関係構築能力とされている。

今回の実践では習得・活用・探究の学習過程に「4C」に関わる部分を明記し、意図的にこれらのスキルを向上できるように授業を構想をした。特に、今回扱う教材は「メディアと人間社会」（池上彰）「大切な人と深くつながるために」（鴻上尚史）を通じて「これからの社会を生きていくうえで大切だと考えること」を問う単元であり、卒業学年の小学校6年生には複数の情報・テキストを読み解き解釈、批評するための批判的思考力（クリティカルシンキング）の習得と活用、他者とのコミュニケーションを通して何のために、何をどうめざすのかについて論述、プレゼンテーション能力等が求められている。

現代社会はインターネット上に有用な情報・テキストも多い反面、根拠の曖昧な情報やフェイクニュース、匿名の情報、時に悪質な誹謗中傷等もあふれている。情報とテキストにクリティカルに向き合い、批評・評価する学習を意識的に構成しなければ子どもたちは正しく判断できにくい状況が生まれてきている。「これからの社会を強く生き抜くことができる子どもたちを育てる」ために、「4C」等の「社会情動的スキル」に着目しながら、Well-beingの理念を実現する教育方法等を提案する必要がある。

4 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

—「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」(小6)を例に—
 (1) 教材の特質—メディア・コミュニケーションに関わる情報・テキスト—

池上彰氏による新教材「メディアと人間社会」は3頁構成で、人間のもつ欲求とメディアの発達との関わりについて解説し「メディアは人間の欲求と関わりながら進化してきた」という主張を述べている文章である。鴻上尚史氏による新教材「大切な人と深くつながるために」も3頁構成で、作家・演出家の経験と立場から現代におけるコミュニケーション技術の上達の難しさや必要性、直接的なコミュニケーションの不足や必要性について述べた説明的な文章である。

教科書の単元構成では小学校6年の1月、卒業を2か月後に控え、メディア・コミュニケーションに関わる「複数の情報・テキスト」を読み解き、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を考えさせる単元とみることができる。「学習の手引き」等では6時間構成で「(二つの文章の) 論の特徴や表現」を知り「社会や生き方」についての考えを形成し、最後は「複数の文章を読んだ感想や考えを伝え合う」時に「気をつけたい」ことを考えさせるとなっている（「学習指導書・小6」等）。

本稿では「Well-being の理念の実現につなげる国語科学習と資質・能力の育成」と言う観点から授業を構成した。これらの二つの説明的文章を「情報理解・構成・発信モデル」としてとらえることで、「習得」（読解・解釈）から「活用」（考えの形成と考察・判断、表現）へと結びつくテキスト内容・形式の学び型の指導・支援が可能となると考えるからである。

小学校国語科ではこれまでは「1つの教材を詳細に読解する」受信型の学習がほとんどであり、PISA2018で課題とされた「複数の多様な情報・テキストを比較し的確に読解」「示された観点や自らの課題意識から批評的に分析解釈、考察し評価」「論理的に効果や説得力、条件等を考慮し考えを論述（評価）」できる能力育成は、管見の範囲では附属小中学校や特定の研究指定校等を除いては全国的にも行われてきていない実情がある。

子どもたちにリアルで切実な課題意識を持たせ（真正の学び・パフォーマンス課題）、わかりやすい複数の情報・テキストを提示、読み比べる視点を与えることで論点の違いや特徴的な表現、自分の生き方や価値観との関連について気づかせ考えを深めさせることができる。社会を生きていくうえで避けることのできない多様なメディアとの関わりについて、情報を批判的に読み評価し自分の経験と結びつけながら考えを形成させる学習、これは「言語能力」「情報活用（モラル）能力」「問題発見・解決能力」（学習指導要領解説「総則」4・7p）を基礎とした国語科学習によって、資質・能力と Well-being（個人的・社会的により良く幸せに生きること）の育成を目指す授業構想とすることができる（注7～12）。

(2) 単元名の設定－児童にとって魅力的で本質的なパフォーマンス課題を－
これからの社会を強く生き抜くために大切なこと

－私たちが考える Well-being とは－

(3) 単元の目標－確かな読解から考えの形成・解釈、共有、創造へ－

①「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」（小6教材、光村図書）を通して複数の情報を読む楽しさ、論理展開の型の理解。
習得1・習得2（学びの楽しさ、基礎から基本へ）【知識及び技能】

②課題「これからの社会を強く生き抜くために大切なこと」を複数の文章を参考に「自分の考え」を形成し「私が考える Well-being とは」というタイトルのレポートにまとめられる。

活用1（情報・テキストの理解、どのように社会と関わりより良い人生を送るかについて「自分の考え」をもち表現する）

【思考力、判断力、表現力等】

- ③論理的なレポートの作成、発表、交流を通して学んだことについての考えや課題を共有し、自分の提案を広げ深め、他教科やこれからの生き方、価値観の形成に生かすことができる。

活用2・振り返り（主体的・対話的な学びから「深い学び」へ）

【学びに向かう力、人間性等】

(4) 単元の学習過程と指導の実際—習得から活用・探究へ—

本実践では習得から活用・探究までの学習過程を系統的・段階的に構想した（注8・9・11、詳細は略）。学習段階は五段階で、「習得型学習1」は全教科の基盤となる言語能力を高める段階。「習得型学習2」は国語科固有の基本となる言語能力を高める段階。「活用型学習1」はパフォーマンス課題に対する考えを創造的・論理的に形成・論述する言語能力を高める段階。「活用型学習2」は形成・論述した考えを共有して考えを深化する言語能力を高める段階。最後に、学習を振り返り、学びを一般化する段階としての「まとめ・振り返り学習」を行い、学びの主体性の育成やメタ認知化を目指している。

なお、「学習指導要領解説『総則』」（2017年文科省）では「深い学び」形成のためには「習得・活用・探究という学びの過程で」「各教科の特質に応じた『見方・考え方』を働かす」ことが強調されている（76～77p）。これは「学習指導要領解説『国語編』」（2017年文科省）でも同様であり、「学習内容の改善」（「第1章 国語科の改訂の趣旨及び要点」）①～⑤のなかで習得・活用・探究という「③学習過程の明確化、『考えの形成』の重視」が明記されている（9p）。

これに対して「習得・活用は整然とは分けられない」「習得・活用・探究は学びのプロセスであり学習段階ではない」というご指摘もあるが「習得・活用・探究という学びの過程」の中で「言葉による見方・考え方」を働かせながら国語科としての学びを深めていけるように、あるいは児童にも教師にも到達度を鮮明にするためには、上記のような学習段階を踏まえた授業構想の設定が重要と考えられる。

①習得型学習1〈導入〉（1時間）

—興味・関心を深め、学び型と学習のポイントを理解する—

導入では、教材の特徴（テキスト内容・形式）と学習のポイントを考えつつ、教材の本質に関わる部分について興味を持たせる。まず筆者の立場や専門性、問題意識等について知る。筆者について確認することで論理展開や内容等が読み取りやすくなることを理解させるためである。教材の話題である「これからの社会を強く生き抜くために必要だと思うこと」につ

いて、児童同士で意見交換を行う。そのうえで二つの教材を通読し興味をもった部分、疑問に思ったり学習を深めたいと思ったりした部分について感想を書く活動を行う（【資料1】開発学習シート①参照。児童に配布の際、学習シート中のポップ体の箇所は空白（以下同じ）。

②習得型学習2〈基礎〉（5時間）

—教材の学び型・学習方略を知る（ある立場からの主張・説得や説明、論理的な構成とキーワードの理解、メディア・リテラシー、複数の情報の理解と解釈、情報活用能力等、テキスト内容と形式）—

第2時は「メディアと人間社会」について、学習指導要領に示されている「構造と内容の把握」の学習としてキーワードを確認しながら文章構成（テキスト形式のポイント）を理解する。文章全体の内容を理解させ論理的な文章を書く時の構成についても考えさせた上で、表現の工夫と筆者の主張を読み取らせ後の学習へつなげる（【資料2】開発学習シート②参照）。

※補足 本稿で使用している「構造と内容の把握」「精査・解釈」「題材の設定」「情報収集」「内容の検討」「構成・表現形式の検討」「内容の検討」等の「 」表記は、「3〔思考力、判断力、表現力等〕の内容」における「指導事項」のキーワードである（11～39p、「学習指導要領解説『国語編』」2017年文科省）。

第3時は「精査・解釈」の学習として筆者がとらえているメディアの功罪のうち「罪」の側面に視点を当てつつ4C：クリティカルシンキングに関わる学習を構成する。複雑多様な価値観やフェイクニュース、悪意ある情報（印象）操作等が交錯する現代、私たちが取り組む教育は結果として子どもたちが真に自分らしく、より良い生き方や価値観の創造に向かわなくてはならない。

本時ではメディアが発信する情報のうち、社会を混乱させる可能性があるフェイクニュースに着目する。フェイクニュースか真実かを判断するにはどうしたらよいか、身の回りや社会に関わる課題として自分事としてとらえ、多様なテキストや情報、他者を批評的・創造的に解釈、判断する資質・能力を育てる。なお、フェイクニュースにはその成り立ちから細かく分類することができる（例えば悪意の有無、印象操作が目的かどうか、単なる善意から誤った情報が拡散されるもの等）。小学生という発達段階を考慮しつつ授業の中で触れることで、より具体的に批判的思考力を育てることが可能となる（【資料3】開発学習シート③参照、注13・14）。

第4時は「大切な人と深くつながるために」について、第2時と同様に「構

造と内容の把握」の学習としてキーワードを確認し文章構成（テキスト形式のポイント）を理解する（【資料4】開発学習シート④参照）。

第5時は「精査・解釈」の学習として4C:コミュニケーションに関わる学習を行う。まずコミュニケーションについて本文の内容を確認したうえで筆者の主張であるスポーツ的コミュニケーション・トレーニングを実際に体験しコミュニケーションの課題をより自分事として捉えられるようにする。さらに、二つの教材に共通する話題の一つでもあるインターネット上でのコミュニケーションも体験させる。現在、各小学校には一人1台のタブレット端末等のICT機器が配備されている。多くの学校ではそれに合わせて学習支援ソフト（ミライシードやスクールタクト、ロイロノート等）も導入された。これらを活用しインターネット・コミュニケーション体験を全員の児童にさせることが可能である。これはまだ家庭にインターネット環境が不十分な児童に対しても学習機会の保証として必要な支援の一つということができる（【資料5】開発学習シート⑤参照）。

第6時は「精査・解釈」及び「考えの形成」の学習として学習を通して考えてきた、筆者が「現代」の社会をどう考えているかを確認する。そして、二つの文章を通して見えてくる現代社会の課題は何かを解釈する学習を行う。これは4C:クリティカルシンキングに関わる学習でもある。一つの文章から読み取れることなく複数のテキストの共通点や相違点を読み取り、自分の考えをもつ学習ができる（【資料6】開発学習シート⑥参照）。

③活用型学習1（4時間）

一習得型学習を生かし「これからの社会を強く生き抜くために大切なこと」についてレポートにまとめる（Well-beingにつながる「言葉による見方・考え方（学びの価値）」の理解と「深い学び」）—

第7時は「題材の設定」「情報収集」「内容の検討」の学習として二つの文章と資料を読み、「これからの社会」を、大切な人と幸せに生きていくにはどうしたらいいか、学級で話し合い自分の興味関心・立場等から自分の考えをまとめる。この考えをパフォーマンス課題（「これからの社会を強く生き抜くために大切なこと—私たちが考える well-being とは」）のレポートにまとめていく。

考え方の例としては、A. インターネット上でも（実世界でも）、自分の思いや考えを正確に伝えたり相手の思いや考えを正確に読み取ったりできる技術を身につける事が大切。B. インターネット上でも（実世界でも）、相手を思いやることのできるコミュニケーション能力を身につけることが

大切。C. インターネット上で（実世界でも）、相手に思いやってもらえなかった時でもそれに負けない心の強さを身につけることも大切。D. インターネット上で（実世界でも）情報を受け取る時に、真実かそうでないかを正確に見分けられる技術を身につけることが大切。E. インターネット上で（実世界でも）発信するときは、たとえ真実であってもそれは本当に発信していいことかどうかよく考えて発信する。F. 人間との直接のコミュニケーションの機会を意識して増やすことが大切。G. 苦しくても（受け入れてもらえなくても）、人とぶつかってもお互いがうまく折り合いをつけるための技術は上達するので、（インターネット上でも、実世界でも）その機会を増やすことが大切等（【資料7】開発学習シート⑦参照）。

第8時は「構成・表現形式の検討」及び「内容の検討」の学習として、自分の考え（考察に合う具体例を考え構成メモを作る。今回の構成メモの「なか」には、「まとめ」につながる「自分や家族、友達の失敗した経験」を書かせる。いわゆる「失敗」と思えるようなことでも前向きにとらえられる考え方（成長型マインドセット）ができるようになることは、より幸せに生きていく Well-being につながるためである。

また、失敗を前向きにとらえられる考え方を身につけ逆境に立ち向かう力（レジリエンス）についても身につけさせたい。これらの考え方や態度は一単元で身につけられるようなものではないが国語科の学習で失敗を明らかにできることは、自分の人生において大切な力になる。具体的には、「なか1」には池上流「メディアとの付き合い方」に関する失敗例を。「なか2」には鴻上流「人との付き合い方」に関する失敗例を学習シート3・5も参考にさせながら書かせる（【資料8】開発学習シート⑧参照）。

第9時は「考えの形成・記述」及び「推敲」の学習として「これからの社会を強く生き抜くために大切なこと—私たちが考える well-being とは—」レポートにまとめる、4C：クリエイティビティに関わる学習を行う。引用や推敲の方法、参考文献の扱いについても指導し今後の学習につなげる（【資料9】開発学習シート⑨参照）。

④活用学習2（0.5時間）

—レポートを基に互いの意見を交流・評価し自分の考えを深化させる—

第10時は「共有」の学習として4C：コラボレーション・クリティカルシンキングに関わる学習を行う。グループでレポートを発表し互いの提案の良さや工夫、改善点を共有、評価、交流する。

⑤まとめ・振り返り学習（0.5時間）

—学習を振り返り学びを一般化する（学びの主体性、メタ認知化へ）—

続けて「考えの形成・深化」の学習として学習を通して学んだことや課題を確認し、他教科への活用や自らの生き方、価値観等の面から学びを自覚する。学習したことや、「むすび」に書いた自分の行動目標がどのように社会とつながっていくのか考え（価値付け、価値の創造）、まとめる。学んだことの生かし方について意識させたり、自分の興味・関心・立場から調べ価値付けさせたりしたい。この振り返りシートは、同時に児童が自らの学習をメタ認知することができるためのループリックにもなっている点が特徴である（【資料10】児童用振り返りシート【資料11】教師用ループリック】参照）。

④活用・探究型学習2（2時間）

—レポートを基に互いの意見を交流・評価し、自分の考えを深化させる—

なお、④第10時については、実践者の勤務校のように、グーグルアカウントが児童に割り振られている場合は、それを利用して学級の班員と「グーグルクラスルーム」という仮想教室を利用した探究型学習を行うという展開も考えられる。「グーグルクラスルーム」に、「私たちが考える Well-being について、『グーグルスライド』を用いて発表する」という課題をあげる。そこに、プレゼンテーションの準備に必要な項目として、前時までに作成したレポートと同様の「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」を提示する。児童は、それぞれのレポートを活用しながら、班員で分担した部分をそれぞれがアップロードする形で、グーグルスライドでスライドショーを協働で作上げることができる。

このようにオンライン上で仲間と会話（Communication）しながら協働作業し（Collaboration）一つのプレゼンテーションを制作（Creativity）することが可能になる。当然、お互いの提案を見てその良さや工夫、改善点等を発見（Critical thinking）、話し合うこともできる活動となる。児童全員にグーグルアカウントを取得させておくというハードルはあるが、メディアとコミュニケーションを扱った今回の実践のまとめとしては最適なものになることが考えられる。

⑤ 学習評価の観点—ループリック（教師用・児童用）の開発—

多様な文脈に応じた「テキスト形式」による学びの横断的汎用性を重視するために、到達目標に対応した振り返りの新たな視点の再構築が必要となる。本実践では評価基準（ループリック）を8項目設定した。これらの項目を活用することにより、学んだことを新たな発想や認識・価値観、より良い生き方

(well-being) の形成に生かしたりする方法を明示したり、指導者の評価に生かすことができる(前述【資料10・11】参照)。

※補足 本稿における評価基準8項目の設定は、Ⅰ【知識・技能】を1・2とし、Ⅱ【思考・判断・表現】を3・4、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】を5・6、Ⅳ【メタ認知】を7・8の項目に分けて提示したものである。学習指導要領での資質・能力は「三つの柱」(ⅠⅡⅢ)で構成されているのでⅣ【メタ認知】7・8項目は不要と思われるかもしれないが、本来はⅠⅡⅢをさらに包括するⅣの視点が必要であり、学習指導要領における資質・能力評価観の課題を是正するとの考え方からである(C・ファデル他著・東京学芸大学次世代教育研究推進機構訳『21世紀の学習者と教育の4つの次元』北大路書房2016年)。

また、文科省による資質・能力「三つの柱」の「評価規準」はA～Cの3段階評価が示されているが、学びの「質」の在り方を具体的に見取り評価することが求められていること、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価し学習者のメタ学習につなげる支援をするためには3段階の評価規準でなくより詳細な基準が必要である(国立教育政策研究所編集『生きるための知識と技能7 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)—2018年調査国際結果報告書』明石書店2019年)。本稿では学習指導要領の評価観の課題への問題提起の意味もあり、「評価基準Ⅰ～Ⅳ」を0～5の5段階に設定した。

5 考察—21世紀型スキル・コンピテンシー論の問題点を踏まえたクリティカルな実践、評価研究へ—

これから必要となる資質・能力として「各教科等を学ぶ意義の明確化」が重視され、「各教科等の学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』」であると述べられている(学習指導要領「総則」)。さらに、これらの学習は「教科等横断的な視点に立った資質・能力」として「言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等」の三つが明記されたことは資質・能力型の教育を構造的に構想し評価していくために重要である(同)。とりわけ今回、従来から重視されてきた「言語能力」(明確なコミュニケーション、他者とのコラボレーションを含むと解釈できる。いわゆる論理的で対話を含むコミュニケーション能力)とともに「情報活用能力(情報モラルを含む)」が資質・能力の基盤として位置づけられた点を重視する必要がある(注7・

12)。

実際に「PISA2018」では、以下の(1)(2)(3)を通じて各教科等を学ぶことを超えた「汎用的な読解リテラシー、が問われたが結果的に成績は前の調査に比べて低下した(注2『OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2018年調査国際結果報告書』)。

※ここでの「汎用的な読解リテラシー、は私見ではICT活用能力も含めた文化的・市民リテラシー、倫理的判断力、クリティカルシンキングや創造性等の「真正の学び」の能力(その基礎・基本)と見ることができる。

- (1) 複数の多様な情報・テキストを比較し的確に読解する能力
- (2) 示された観点や自らの課題意識から批評的に分析解釈、考察し評価する能力
- (3) 論理的に効果や説得力、条件等を考慮し考えを論述(評価)する能力の三項目である。

これにこれからの資質・能力育成の授業デザインとして付け加えるなら、

- (4) 討論や議論、論証等の構造と効果を判断する能力(論点化の適否、論理展開の虚偽、論点ずらしやすすり替え、権威による論証、暗黙の了解や根拠等への批評的な洞察力等)
- (5) 学修内容と方法、関わり方を自己調節する等のメタ認知能力等

ただ、21世紀型スキル論やコンピテンシー論の理論的問題点、教育学的な課題等を踏まえたクリティカルな実践、評価研究に留意する必要がある。ここでは簡単に、その一端を指摘しておきたい。

この点については既に指摘や論争がある。1) 21世紀型スキルは「教科内容」と切り離して教えることはできないし正確な知識理解が欠けている場合、こうした能力やスキルを活用できない、2) 「知識基盤型経済にとっての有用な労働力人材育成」が大前提になっており教育が目指すべき「調和のとれた人間としての能力の発達」が軽視されている、3) 21世紀型スキルやコンピテンシーの考え方は将来の子どもたちが全て「知識集約的な労働者」になることが念頭におかれているが先進国でもだが開発途上国では「非現実的」ではないか、4) ICTスキルを過度に重視しているが、「ICTリテラシーが必須でなければならない理由はない」等である(29~30p、田中義隆著『21世紀型スキルと諸外国の教育実践』明石書店2015年)。本稿の提案はこうした諸課題を踏まえた提案である。

6 おわりに—教科学習、テキスト批評、Well-being、資質・能力—

多様な情報や価値観が交錯する現代、自己や社会に関わる課題を自分事として捉え、多様なテキストや情報・他者を批評的・創造的に解釈・批評しながら、協働的に粘り強くより良い解決方法を試行錯誤しながら探究し続ける資質・能力や態度・価値観の形成が求められている。

しかし、教科を学ぶ本質的な価値と資質・能力、これ等の学習が Well-being の理念の実現につながるようなクリティカルで系統的な教育方法論や実践・評価提案はまだほとんどみられない。本稿は小学校6年国語科学習を例に、これまでの21世紀型スキル論やコンピテンシー論の理論的問題点、教育学的な課題等を踏まえた教育の在り方を提案したものである。

なお、開発した全学習シートの例示や実際に児童が記述した学習シートの分析や考察、児童の学びの過程や変化・変容等の詳細については、紙面の関係で十分に論じられなかった。別稿による検証を予定している。

佐藤は1～5・12～15頁と全体に関わり、加藤は5～11・16～27頁執筆と授業実践、教材開発・学習シート開発等を行った。

【注記及び関連する主な参考文献】

- 1 「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」（教育再生実行会議第十二次提言2021年6月）、渡邊淳司、ドミニク・チェン監修編著『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために』（BNN 新書2020年）等。
- 2 国立教育政策研究所編集『PISA2015年調査国際結果報告書 生徒の Well-being』（2017年）、松尾知明著『21世紀スキルとは何か』（明石書店2015年）、国立教育政策研究所編集『生きるための知識と技能7 OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）—2018年調査国際結果報告書』（明石書店2019年）、田中義隆著『21世紀型スキルと諸外国の教育実践—求められる新しい能力育成—』（明石書店2015年）等。
- 3 キャロル・S・ドエック著、今西訳『マインドセット（原著2006年）』（草思社2016年）、トム・ケリー&デイビッド・ケリー著、千葉訳『クリエイティブマインドセット』（日経 BP 社2014年）、アニー・ブロック他著、佐伯訳『マインドセット学級経営』（東洋館書店2019年）、アンジェラ・ダックワース著、神崎訳『やり抜く力』（ダイヤモンド2016年）。ハーバード・ビジネスレビュー編集部『レジリエンス』（同2019年）等。
- 4 経済協力開発機構（OECD）編『社会情動的スキル—学びに向かう力—』（明石書店2018年）、石井英真監修『失敗から学ぶ』（東洋館書店2021年）等。
- 5 Partnership for 21st Century Learning HP (<https://www.battelleforkids.org/networks/p21>)、Bernie Trilling & Charles Fedel『21st Century Skills :Learning for Life Our Times ベーパーバック』（Jossey-Bass:2012年2月）、P・フィン他編、三宅監訳『21世紀スキル』（北大路書房2014年）、C・ファデル他著、岸監訳『21世紀の学習者と4つの次元』（同2016年）等。

- 6 ユヴァル・ノア・ハラリ著『21Lessons—21世紀の人類のために—』（河出書房新社 2019年）、レスリー・ジェーン・イールズ-レイルズ他著、楠見他訳『大学生のためのクリティカルシンキング』（北大路書房2019年）、楠見孝他編『批判的思考』（新曜社2015年）、酒井雅子著『クリティカル・シンキング教育』（早稲田大学出版部 2017年）等。
- 7 佐藤洋一「国語教育は資質・能力型教育に対応できるか—デジタル時代の情報リテラシーへ—」（『楽しく深い学び』を創る国語科授業研究会紀要第3号）2020年）、同「新学習指導要領における『豊かな深い学び』とは—創造的な『課題発見・解決能力』、生き方や価値観の更新—」（名古屋学芸大学教職課程研究会編『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究 第3集』2021年）、同『『マインドセット』とこれからの教員の資質・能力育成』（2021年7月、21世紀型教育研究会講演資料）等。
- 8 佐藤洋一・有田弘樹「資質・能力を育て『深い学び』につなげるカリキュラム・マネジメント」（名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要12号2019年3月）
- 9 佐藤洋一・左近妙子「資質・能力を育てる国語科カリキュラム・マネジメント」（「名古屋学芸大学（教養・学際編）研究紀要」第15号2019年3月）
- 10 佐藤洋一・21世紀型教育研究会編著『21世紀型教育研究—新しい学びを作る（紀要第5号）』（2021年2月）等。
- 11 佐藤洋一・加藤洋佑「創造的な『課題発見・解決能力』を育てる探究型国語科学習」（「名古屋学芸大学（教養・学際編）研究紀要」第16号2020年3月）
- 12 加藤洋佑（研究発表）「深く人間的な学びを創る『批評文』教材開発—21世紀型資質・能力の学力育成を目指して—」（日本教材学会東海・近畿・北陸支部研究会2017年3月・中部大学名古屋キャンパス）、同『『自立・協働・創造』的な学びを創る—『鑑賞文』授業開発『この絵私はこう見る』を例に—』（『教育科学国語教育2018年8月号』明治図書）、「集めろ！高まれ！！言葉パワー」（愛知教育大学附属名古屋小学校研究紀要『和衷協同 Vol.2』（2020年5月））等。
- 13 国際図書館連盟（IFLA）「フェイクニュースの見極め方」（2020年4月17日改訂）。
- 14 NHK for school「メディアタイムズ（フェイクニュースの見分け方）」（2021年）。

※学習シート③のうち、設問3では2016年4月14日に発生した熊本地震直後に実際にあったツイートを引用しております。アカウント名を隠すため、投稿の一部に加工をしています。なお、現在ではそのツイートは削除されていることをお断りいたします。

【資料1】 開発学習シート①（筆者の立場・専門性の理解から、正しい読解へ）

【説明】 本文を『「スティアムく聞かせ」』（池田 彰）『大切な人と笑ってなりたい』（池田 彰）①

問題課題 **筆者の立場や専門性について知り、読後をもとに感想を書こう。**

シート1 **筆者の立場や専門性について、問題にも取り組むことを読み取ろう。**

☆【読図】を正しく読みとせ、筆者の立場や専門性について、問題にも取り組むことができるようにしよう。正しく読み取る訓練が必要です。

- ①「もち」筆者の「名前」は、
 ・（スティアム… **池田 彰** ）
 ・（大切な人… **理田 尚平** ）

- ②「く」筆者の「職業」は何だろうか。
 ・（スティアム… **ライター** ）
※「ライター」は「作家・著述者」
 ・（大切な人… **作家・著述者** ）

- ③「もち」 「何しなむじい人」は、
 ・（スティアム… **文字を傳へ、伝える者** ）
 ・（大切な人… **物語の作り手、見守る者** ）

- ④筆者の「問題（課題）意識」は何だろうか。
 じい、本文を読みながら考えたり記そう。

★読後書に書こうとせ、理由★
 ・ 読後（のち）も※自分なりの書いじらしよう。
 読後書『伝えるる』（PHP）の序文（2007年）
 田 『一々読者の読後書に』（『大切な人と笑ってなりたい』、2010年）
 読後書『大切な人と笑ってなりたい』の序文（2010年）
（読後書、2000年）

☆【読図】「じいれらの社会」を笑って生かすため、
 何なだけ意識して笑うじいれを自由に書こうとせ。

シート2 **読後をもとに、感想を書こう。**

「スティアムく聞かせ」は（ ）読後し、
 「大切な人と笑うじいれ」は
 （ ）読後しなむじいれに記そう。

(1) 110の文章を読み、**「もち」く、もち**
「く」じいれに記さむ。「誰の」「じいれに記さむ」
 べ」であらう。理由をいじいれに記そう。

誰	
どの読後（著者）	
理由	

(2) 110の文章を読み、**「く」じいれに記さむ**、**「もち」**
「く」著者にも記さむ。「誰の」「じいれに記さむ」
 「誰の」「じいれに記さむ」であらう。理由を
 いじいれに記そう。

誰	
どの読後（著者）	
理由	

【資料2】開発学習シート②（構造と内容の把握）

○「じわじわの幸福感」を「幸福感」に置き換えてみる。→「幸福感」の well-being

説明

【資料2】開発学習シート②

○森田を『スタートアップ社会』（朝日新聞）②

学習課題

語句的意義の「構造」を把握しよう。

本語句的意義の「構造」は、森田が「幸福力のキーワード」を挙げたこと、森田が「語句の語句の意味の問題」などの問題をとりあげたこと、これらの問題を挙げたことが、幸福を築くことである。

スタートアップ 「幸福構造（はじめ・なか・まとも・おわり）」を
もとめようという問題を理解しよう。

構成	社会の段階		人間の成長
	はじめ	なか	
はじめ 話題提示	①		
なか 具体例			
まとも 考察			
おすび 主張・一般化			

○ **幸福の「はじめ」を整理しよう**

○ **幸福の「なか」を整理しよう**

おすび **おすび** **おすび**

【資料4】開発学習シート④（構造と内容の把握）

○「じわじわとほほほ」 顔の表情がくたばりたけないうち 一歩にわたる静けさの well-being

説明

【資料4】開発学習シート④

○森本は『大切な人と笑ってなれるために』（河上 雅夫）①

学習課題

読者の文章の「構造と内容」を把握しよう。

本二つの文章を比べながら、自分の考えをその議題としていもませ。この時局は「メディアと人間社会」の議題を生むこと、同じように他の展開や表現の工夫、筆者の主張を読み取りましよう。

ステップ1 「読後構造（はじめ・なか・まとも・おわり）」を
まともけいどの位置を確認しよう。

切すび 主張・一般化	まとも 考察	なか 具体例	はじめ 話題提示 ①	構成 主な内容

○ 読者の主張を整理しよう

○ 筆者の主張を整理しよう

ステップ2 読みかえよう

【資料5】 開発学習シート⑤（コミュニケーション）

○ 「じぶんはのびたねえ」 誰のせいだ？ 誰のせいだ？ 誰のせいだ？ well-being

【課題】 開発学習シート⑤

○ 坂村将 『大切な人と笑って過ごそう』 (筑土 博史) ⑤

① 坂村将 『大切な人と笑って過ごそう』

1. 坂村将 『大切な人と笑って過ごそう』

2. 『大切な人と笑って過ごそう』

3. 「大切な人と笑って過ごそう」のなかで、
あなたが最も印象に残った場面を、
詳しく説明してください。 (必ず場面を説明してください。)

4. 坂村将 (著) 『大切な人と笑って過ごそう』

【課題】

あなたが最も印象に残った場面を、
詳しく説明してください。 (必ず場面を説明してください。)

① 坂村将 (著) 『大切な人と笑って過ごそう』

② 坂村将 『大切な人と笑って過ごそう』

5. 坂村将 (著) 『大切な人と笑って過ごそう』

【課題】

あなたが最も印象に残った場面を、
詳しく説明してください。 (必ず場面を説明してください。)

③ 坂村将 (著) 『大切な人と笑って過ごそう』

④ 坂村将 (著) 『大切な人と笑って過ごそう』

⑤ 『大切な人と笑って過ごそう』

【課題】

【資料6】 開発学習シート⑥（クリティカルシンキング）

○ 「これからのおぼろげ」 瀬ノ井龍彦さんの「大切なのは」 一歩はいたるべき well-being—
 説明 【資料6】 開発学習シート⑥

○ 藤本浩 『スタートアップ社会』（朝日 新）『大切なのは笑って済むことだ』（朝日 新）⑥

批判的読解

110の文書を読みとらせしめる。現社会の課題をききとる。

ポイント 110の文書の共通点（区別点）をききとる。

(ア) 110の文書が、それぞれの課題が、

() をききとる。大切だと感じていること

しつこく繰り返す。

(イ) 自由な書き出しをききとる。

○ 「これから社会」とあるが、本文中からそれぞれの課題を、「現社会の課題」としてききとるのかききとらぬか。

現上	人間が「時ごやきまをばせるといふ」「社会をいひつゝしるるをいひつゝ」といふ語をばせしめをききとる。 ※ 現社会、人々、スタートアップ、説明、語
現上	スタートアップの課題は、とどろく人間の価値のロジック、人々の生活にききとる。

ポイント 110の文書を読みとらせしめる。現社会の課題は何がききとる。

「時ごやきまをばせるといふ」「社会をいひつゝしるるをいひつゝ」といふ語をばせしめをききとる。 ※ 現社会、人々、スタートアップ、説明、語
人間の価値のロジック、人々の生活にききとる。

言葉の力 書き出しをききとる。

【資料7】 開発学習シート⑦ (複数のテキストから自分の考えを形成する)

○ 「じわじわおぼれだ、顔の半分取ったら、水筒が、じわじわおぼれだ」 well-beingー
説明 【資料7】 開発学習シート⑦

○ 取材は『インターネット社会』（池上彰）、「大切な人と深くつながる」(瀬戸尚也) ①

学習課題

二つの文章を讀み、「じわじわおぼれ」が、大切だと感じる理由を、自分の考えをもとめて、書きたいことを書いてください。自分の考えをまとめて。

ヒント① 二つの文章を讀み、自分の考えをまとめて。

自分の考え

Blank writing area for the first part of the task.

自分の考え (×印)

- A. インターネット上でも(実世界でも)、自分の思いや考えを正確に伝えたり、相手の思いや考えを正確に読み取りたいときは、技術を身につける事が大切。
- B. インターネット上でも(実世界でも)、相手を思いやることと、自分のメンタルヘルスを大切にすることが大切。
- C. インターネット上でも(実世界でも)、相手に思いやることができず、だたでも、それに負けない心の強さを身につけることが大切。※思いやることができない状態、強し、思いやれるようになる。
- D. インターネット上でも(実世界でも)情報を発信するとき、「真実かどうかわかを正確に自分だけの技術を身につけることが大切。
- E. インターネット上でも(実世界でも)発信するとき、大切なことを、それは本当に発信したいこととわかつたことを発信する。
- F. 人間との直接のコミュニケーションの機会を増やすことが大切。

自分の考え

Blank writing area for the second part of the task.

言葉以外の、書き添いをしよう。

Blank writing area for additional notes.

【資料9】 開発学習シート⑨表（クリエイティビティ） ※裏面略

【学習者】 時と場合により、及び状況により、と、人々へ		【家庭】 建設的になる	
<p>「Well-being」 時と場合により、及び状況により、と、人々へ</p> <p>→ 建設的になる well-being →</p>			
はじめ（課題1）	<p>☆ 建設的になる</p> <p>（建設的になる） 建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p>	<p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p>	
なか1（課題1）	<p>☆ 建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p>	<p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p>	
なか2（課題2）	<p>☆ 建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p>	<p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p>	
まじめ（課題3）	<p>☆ 建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p>	<p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p>	
わがび（授業・一貫性）	<p>☆ 建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p> <p>建設的になる</p>	<p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p> <p>建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。 建設的になる。</p>	
<p>【建設的になる】 建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）</p>			
<p>建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）</p>			
建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）
建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）	建設的になる（建設的になる） 建設的になる（建設的になる）

【資料10】 児童用振り返りシート（児童用ルーブリック）

振り返りシート
() 年 () 組 () 番 ()

【資料10】 児童用振り返りシート	目	I 知識・技能	II 思考・判断・表現	III 主体的に学習に取り組む態度	IV その他 (ふり返りの力)
	ふり返り内容	(1) (2) 【これまでの学習シートを戻し】 複数のタスクをこなして考えたこと、それぞれの強みを褒める、共通点を探したところを記入せよ。	(3) 【自分のシートを戻す】 ステップやコミュニケーションなどについて、現代社会や生活実態との関連を捉え、自分の席から発表方法を考へて、シートに簡潔な文で表現せよ。	(5) 知識・技能や読解力・判断力・表現力を獲得するため、様々な学習に意図的に取り組むこと。	(7) 1) 力をよみかき、身に付けたい力を明確に自覚すること。
			(4) 【自分の話し方の特徴を戻す】 話し方について、話し、自分の考えをどう伝えるか、その強み、考えをどう伝えるか、自分の強みやその見方、考え方について、捉え直しを交わし考えを整理すること。	(6) 学習の場々に、より良い学びにはどうすればよいか考え、学習の良法や考え方を捉え、自ら学習すること。	(8) 身に付けたい力を明確に、他校生や学びを自分の生活の、ふたつにどう活かせるか。
					(自分の考えを書こう)

◎◎…5
 ◎◎…4
 ◎◎…3
 ◎◎…2
 △△…1
 を書こう。

◎学習したこと、「ひたひた」に集った自分の活動目標は、これらの状況を基にどのように取り組むか、どうするかを、(学習の「強み」を振り返り)。

--	--

【資料11】 教師用ルーブリック

		【資料11】 教師用ルーブリック					
観点	具体的な姿	例	出席番号1	出席番号2	出席番号3	出席番号4	出席番号5
I 【品鑑・技能】	(1) それぞれの筆者の考えを理解し、説明的文章を賞む楽しさや魅力、基本的論議展開の姿を理解できた。	○					
	(2) 複数のテキストを合わせて考えることで、それぞれの特徴を探ったり、共通点を探したりすることができた。	○	3				
II 【思考・判断・表現】	(3) メディアやコミュニケーションについて、現代社会や世界が抱える問題を発見し、自分の立場から解決方法を考え「これからの社会を、強く生き抜くために大切なこと—私たちが考える well-being の作り方—」レポートに論理的な文章構成できたとめることができた。	◎					
	(4) 自分の生きがやその見方、考え方について、友達と意見を交わし考えを形成することができた。	◎	5				
III 【主体的に学習に取り組む態度】	(5) 知識・技能や思考力・判断力・表現力を獲得するため、学習に粘り強く取り組むことができた。	○					
	(6) 学習の途中で自分の達成度を振り返り、より良く学ぶために調整しながら学習を進めることができた。	◎	4				
IV 【スタディ】	(7) 学習全体を通して身に付けた資質・能力(1)～(6))を振り返りができた。	◎					
	(8) 学習全体を通して身に付けた資質・能力を、他教科の学習や、自らの生きが、ものの見方・考え方(厚構成)に生かす視点をもっている。	○	4				
	(10) 自分の生きがや未来へ生かせる場面への具体的な想像がある						

【資料11】 教師用ルーブリック

(教師用・本単元「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」におけるルーブリック) (1～W (1)～(8))、0～5の8段階) 十分に達成できている…◎、概ね達成できている…○、不十分ではあるが重点点に即って学習した姿が見られる…△、全くできていない…× ※ 「十分」であるかどうかの基準：下の具体的な内容に加え、【◎】内の評価項目まで達成できているかどうか。 ◎…◎…5 (S評価)、◎…4 (A評価)、○…3 (B+評価)、○△…2 (B-評価)、△△…1 (C評価)、×がある…0 (D評価)